

絹本著色仏涅槃図修理事業

宗教法人真蔵院 代表役員 峰 覚雄

表具全図

本紙全図

<修復前>



仏涅槃図

本 紙：
縦 128.3cm × 横 95.33cm

総寸法：
縦 195.03cm × 横 110.73cm

滋賀県

解説

南北朝～室町時代前期の制作と推定される《仏涅槃図》である。本作が注目されるのは、釈迦を囲む会衆に、尊名を記した短冊形を表す点であり、中世に制作された《仏涅槃図》の中でも、こうした作例は珍しい。本作と同系統の長命寺本の図中にも諸尊の尊名が記されるが、この部分が剥落しており、長命寺本の尊名を特定する手掛かりになるという点でも、本作の価値は高い。

経年による料絹の欠損や顔料の剥落等、早急な修理が必要であったが、裏打紙の取り換え、剥落止め等の処置を行い、貴重な作例を後世に伝えるための修復を実施することができた。また、軸木の墨書から、天文4年と万治4年に修復が行われていたことが判明した。

表具全図
＜修復後＞



本紙全図



修復業者

株式会社 藤岡光影堂

修復内容

本紙には、経年による絹の劣化、折損と亀裂、顔料の剥落等がみられ、表装裂や紐等にも経年劣化、損傷がみられたため、本格的な解体修理を実施した。

修理にあたって、本紙の損傷状態を調査・記録し、剥落止めを行った上で、表装を解体した。裏打紙は全て除去し、肌裏紙は乾式肌上げ法で可能な限り除去し、除去できない箇所は可能な限り薄くし新しい肌裏打ちを行った。絹の欠失箇所は電子劣化絹で補絹し、補絹箇所は周囲の色味に合わせ地色補彩を行い、折損箇所には折れ伏せを施した。表装裂地、軸首、軸木、上巻絹、紐、環は新調し、掛軸装に仕立てた。保存箱は桐太軸巻月屋郎箱を新調し、旧軸木や裂等は、旧保存箱に保管した。

修 理 報 告 書

令和 5・6 年度修理（2 箇年度継続修理）

絹本著色 仏涅槃図 1 幅

真 藏 院 藏

京都市北区上賀茂神山 386 - 5

株式会社 藤岡光影堂

I. 現在の状況

1. 品質形状及び寸法

絹本著色・掛軸装 仏仕立て

本紙寸法 縦 128.3 cm × 横 95.3 cm

総寸法 縦 195.0 cm × 横 110.7 cm

II. 損傷状況

- ・画面上部に大きな破損個所があり、料絹・裏打紙共に欠落している。
- ・画面全面に渡り横折れが多数見られ、折れ山から亀裂へと進行し、剥離剥落が顕著である。
- ・料絹の継ぎ目個所は経年の擦れにより損傷している。
- ・絵具層は膠着力の低下から剥離剥落が起こっている。また過去の修理の際に裏彩色を痛めた個所が見られる。
- ・画面全体的に地透け感があるため、修理の折には本紙に適切な肌裏紙の色の選択が必要である。
- ・表装裂は経年による擦過傷・虫喰・浮き・汚れ等が見られ新調を要する。

II. 修理方針

損傷状況から、裏打紙を全て取り換える根本修理を行う。画面の汚れの除去、剥落止、裏打紙の取り換え、欠失個所への補絹、地色補彩、折損個所への補強を行う。

表装裂地・軸首・軸木（上下一組）・上巻絹・紐・鐙を新調する。桐太軸巻付屋郎箱 1 合を新調する。保存箱に柿洪製四方帙を新調する。

III. 修理仕様

＊令和 5 年度（1～10 の 40%）

1. 修理前に写真撮影を行い、本紙の損傷状態を調査・記録した。
2. 料絹の剥離個所に糊挿しを行った。【工程写真 1～4】
3. 絵具層の状態を調査し、必要個所に膠水溶液で剥落止を行った。
4. 表装を解体した。【工程写真 5・6】
5. 総裏紙を除去し、仮打ち後、汚れを除去した。【工程写真 7～9】
6. すべての絵具層に膠水溶液による剥落止を行った。【工程写真 10】
7. 機能紙・厚口楮紙と布海苔で 3 層に表打ちを行い、一時仮張を行った。【工程写真 11・12】
8. 諸材料を準備した

9. 旧修理による不良補修を除去した。【工程写真 13】
10. 小面積に小量の水分を加え、乾式肌上げ法で繊維を解すように肌裏紙を除去した。
【工程写真 14】

＊令和 6 年度（11～24）

11. 欠失箇所電子線劣化絹で補絹を行った。【工程写真 15】
12. 本紙裏面から顔料の剥落止め処置を施した。【工程写真 16】
13. 小麦澱粉糊・薄美濃紙で肌裏打を行った。【工程写真 17】
14. 古糊・美栖紙で増裏打を行い、一時仮張した。
15. 折損個所に折れ伏せによる補強補修を行った。【工程写真 18】
16. 厚みを増すために、古糊・美栖紙で増裏打を行い、一時仮張を行った。
17. 補絹個所に地色補彩を行った。
18. 表装裂地を新調し、肌裏打・増裏打 2 度・仮張を行った。【工程写真 19】
19. 本紙と裂地を仮張から取り外し、元の形式に付廻しを行った。【工程写真 20】
20. 耳折後、古糊・美栖紙で中裏打を行い、一時仮張を行った。【工程写真 21】
21. 古糊・宇陀紙で総裏打を行い、表裏仮張乾燥を行った。【工程写真 22】
22. 軸首、軸木（上下一組）、上巻絹、紐、鐙を新調した。
23. 桐太軸巻付屋郎箱 1 合を新調した。
24. 保存箱に柿渋製四方帙を新調した。
25. 十分に乾燥した後、仮張りから取り外し、（耳剥き、裏擦り、風帯付け、軸付け、鐙・紐付け）仕上げを行った。【工程写真 23】
26. 修理報告書を作成した。

IV. 今回修理で知り得た事実・報告事項

- ・表具装解体した旧中軸は墨書があった。旧修理時の年号などが記されていた。
- ・旧修理では折れ伏せ入れなどの修理跡が多数確認できた。裏打は 3 層で仕立てられていたが、古い肌裏紙を取り換えずに、総裏紙のみ取り換えられていたと思われる。
その為、旧肌裏紙は経年劣化が著しく、部分的に紙の繊維が泥化して料絹と一体化しており除去できない状態であった。除去できない箇所は可能な限り薄くしてから新しい肌裏打ちを行った。
- ・本紙裏面には裏側からの彩色があることが確認できた。

V. 修理後の状況

絹本著色 掛軸装 二段表補表装

本紙寸法 縦 129.1 cm × 横 95.3 cm

総寸法 縦 228.9 cm × 横 115.1 cm

VI. 修理における使用材料

軸木・発装	杉材	京都	中政
肌裏紙	楮紙	綾部	林伸次
増裏紙	美栖紙	吉野	上窪正一
総裏紙	宇陀紙	吉野	福西弘行
表具裂	金襴・綾裂	京都	鳥居
保存箱	太軸巻付桐材屋郎箱	京都	夜久桐箱店
新糊		京都	藤岡光影堂
古糊		京都	藤岡光影堂
柿渋製紙四方秩箱		京都	藤岡光影堂

工程写真

本紙断片の補強

【工程写真1】



本紙の仮継ぎ合わせ

【工程写真2】



糊挿し

【工程写真3】



糊挿し

【工程写真4】



解装

【工程写真5】



解装

【工程写真6】



旧総裏紙の除去

【工程写真7】



浄化水によるクリーニング

【工程写真8】



工程写真

クリーニングで移動した汚れ

【工程写真9】



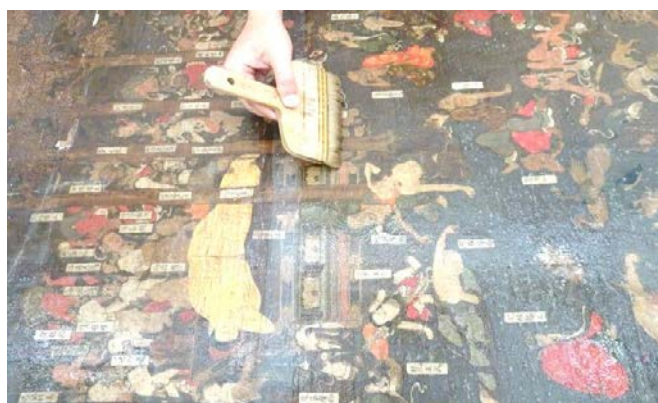
顔料層の剥落止め

【工程写真10】



表打ち

【工程写真11】



表打ち

【工程写真12】



旧補修の除去

【工程写真13】



乾式肌上げ法による裏打の除去

【工程写真14】



人工劣化絹による補絹

【工程写真15】



本紙裏面からの剥落止め

【工程写真16】



工程写真

本紙の肌裏打ち

【工程写真17】



折れ伏せ入れ

【工程写真18】



裂地の整備

【工程写真19】



付廻し

【工程写真20】



中裏打

【工程写真21】



総裏打ち

【工程写真22】



仕上げ

【工程写真23】

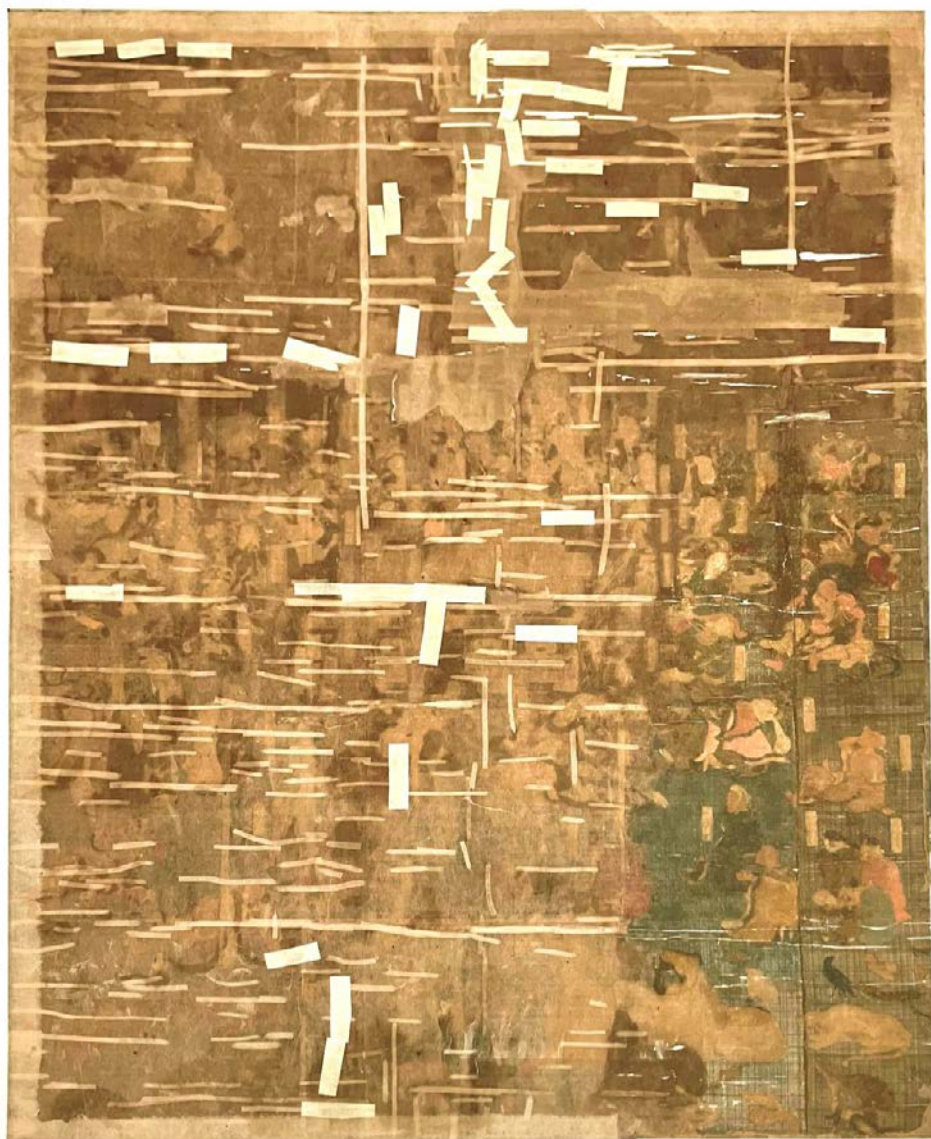


新調した保存箱



修理中本紙裏面写真

旧肌裏紙除去中



修理中写真(部分)

本紙裏面旧裏打紙除去中



修理中写真(部分)

本紙裏面旧裏打紙除去中



本紙裏面彩色部分





修理中写真

旧肌裏紙除去後

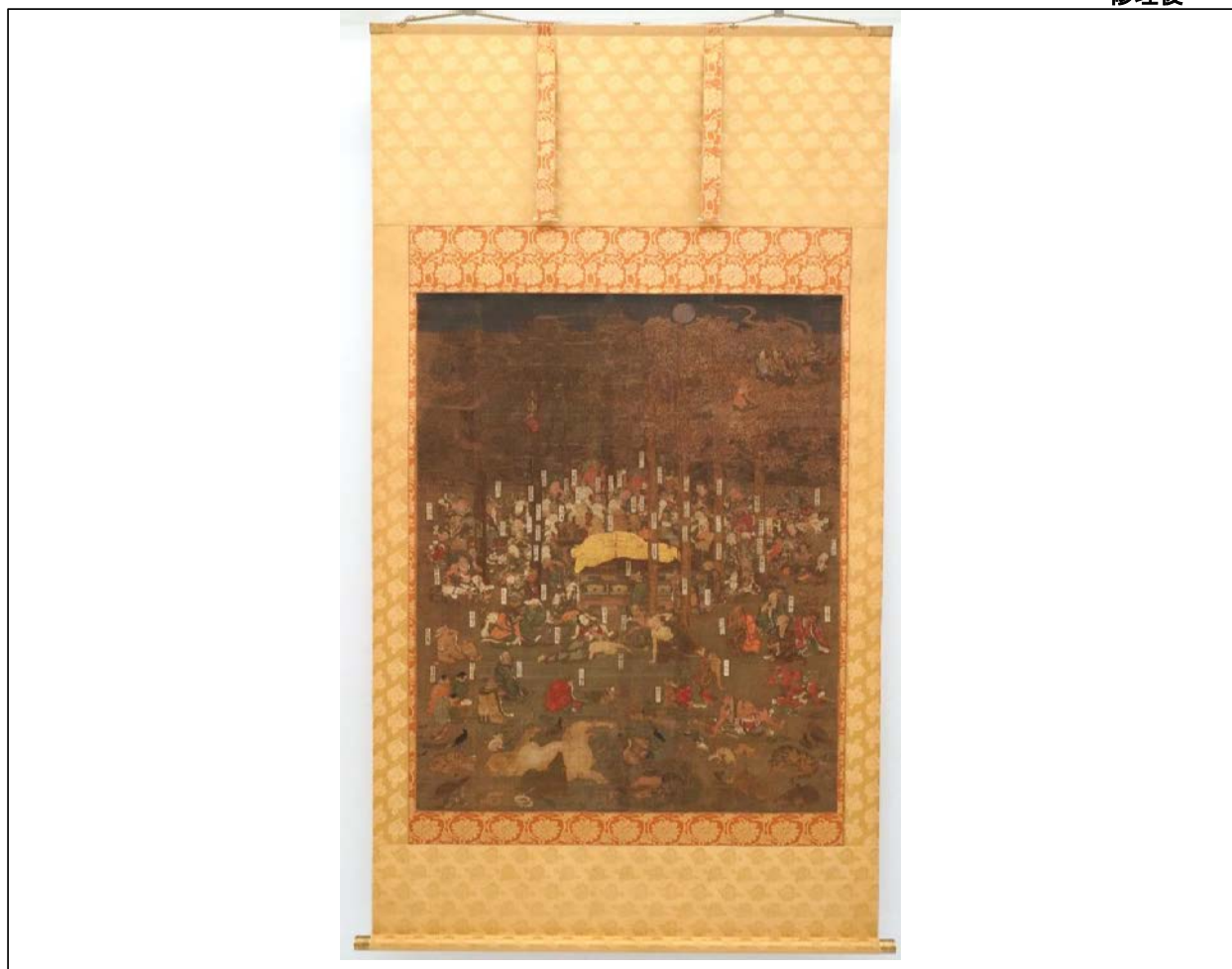
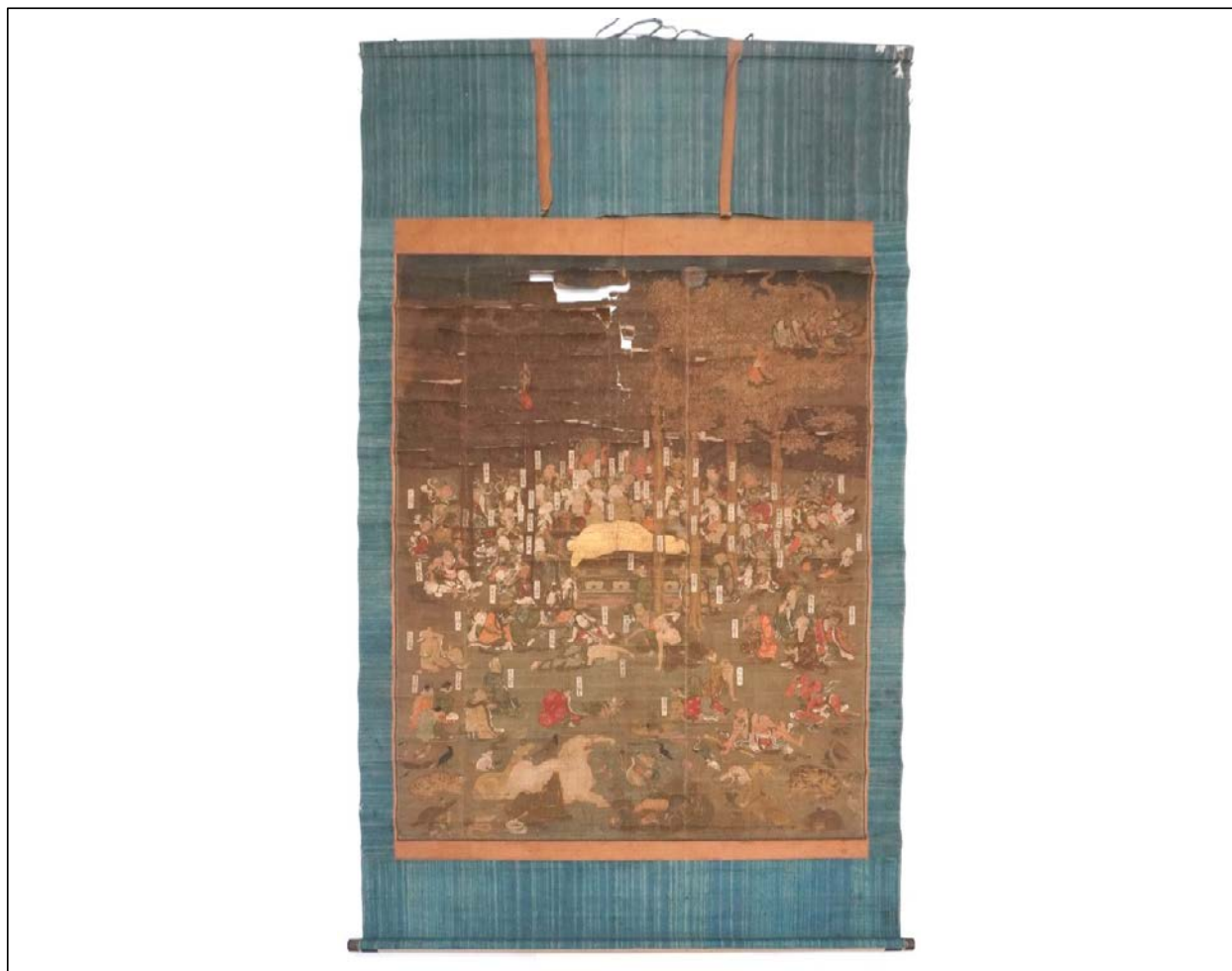


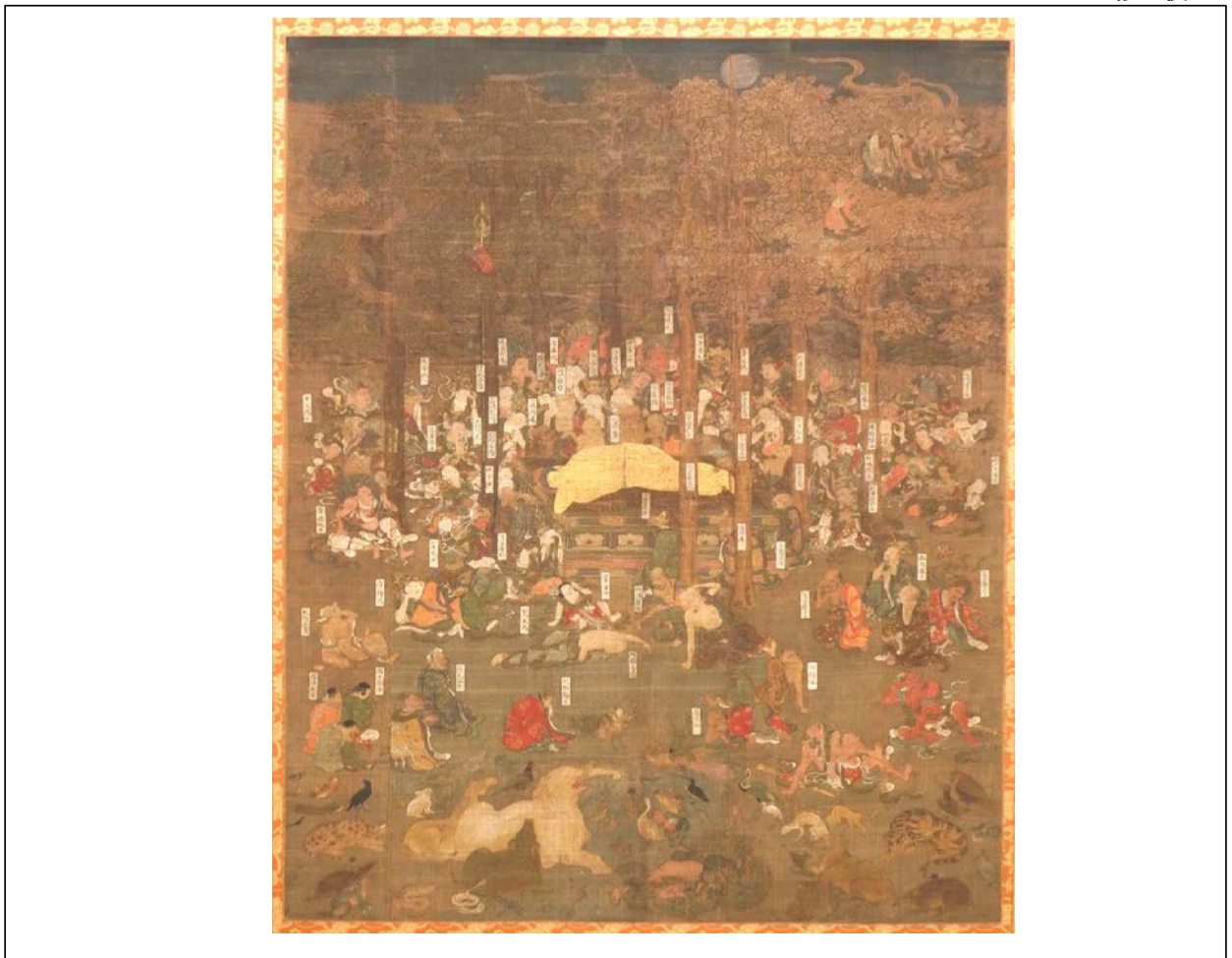
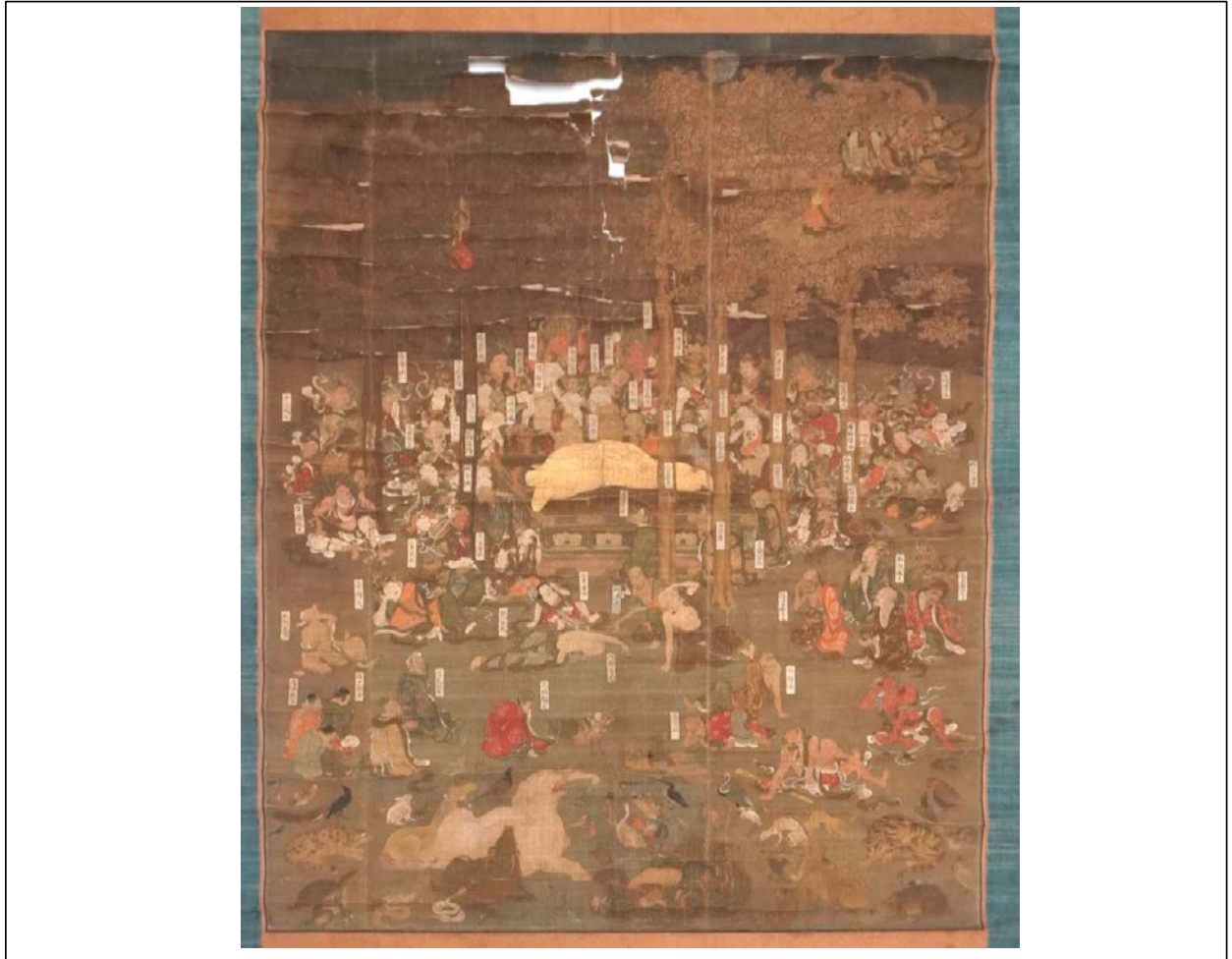
本紙裏面彩色部分



本紙裏面彩色部分拡大







修理前後写真(部分)

修理前



修理後



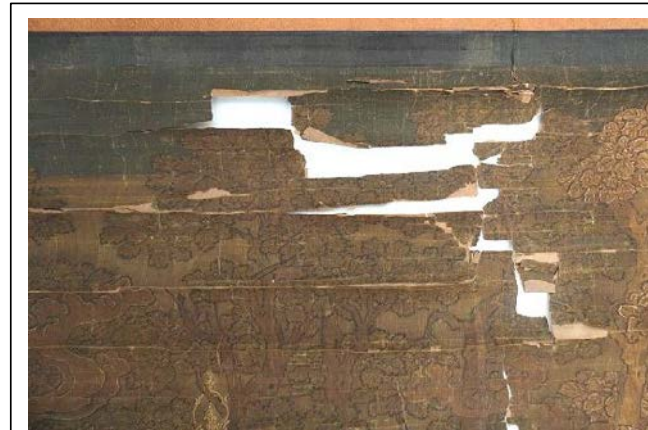
修理前



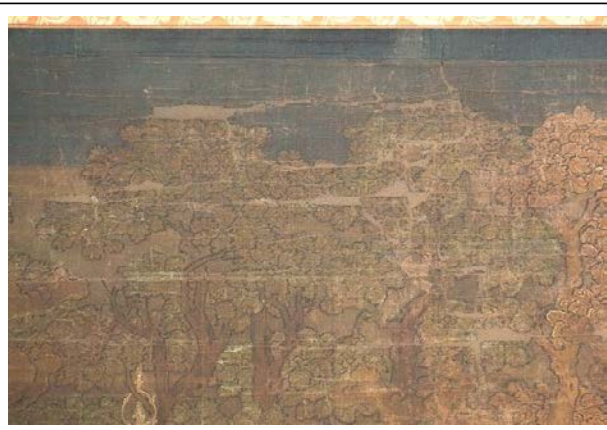
修理後



修理前



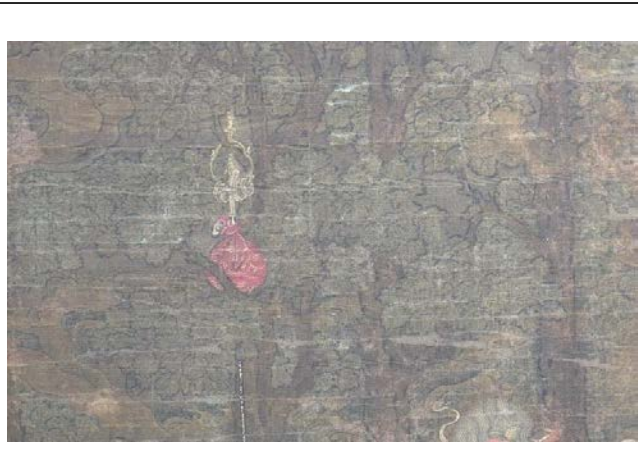
修理後



修理前



修理後



修理前後写真(部分)

修理前



修理後



修理前



修理後



修理前



修理後



修理前

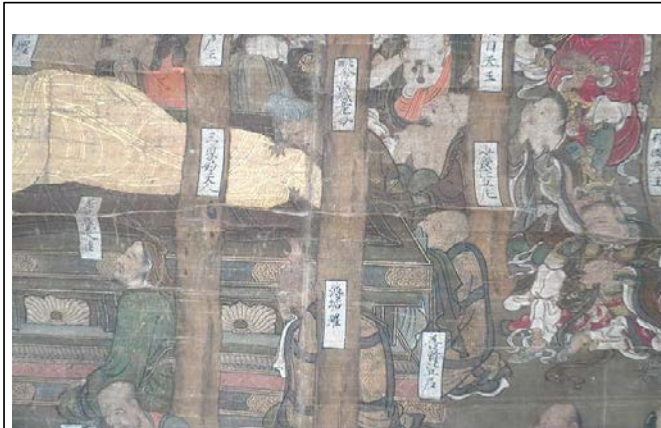


修理後



修理前後写真(部分)

修理前



修理後



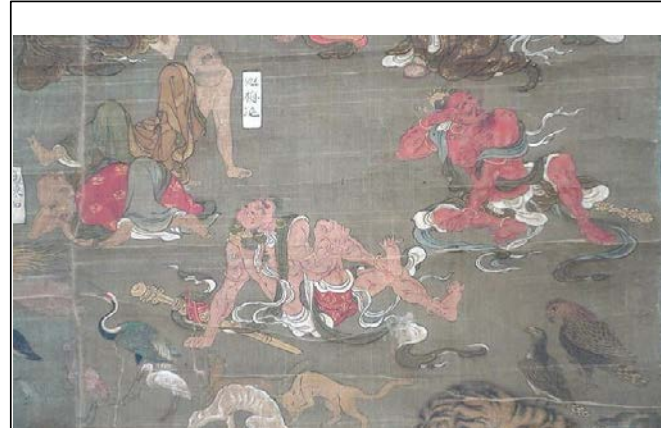
修理前



修理後



修理前



修理後



修理前



修理後



修理前後写真(部分)

修理前



修理後



修理前



修理後



修理前



修理後



修理前



修理後



修理前後写真(部分)

修理前



修理後



修理前



修理後



修理前



修理後



修理前



修理後



修理前後写真(部分)

修理前



修理後



修理前



修理後



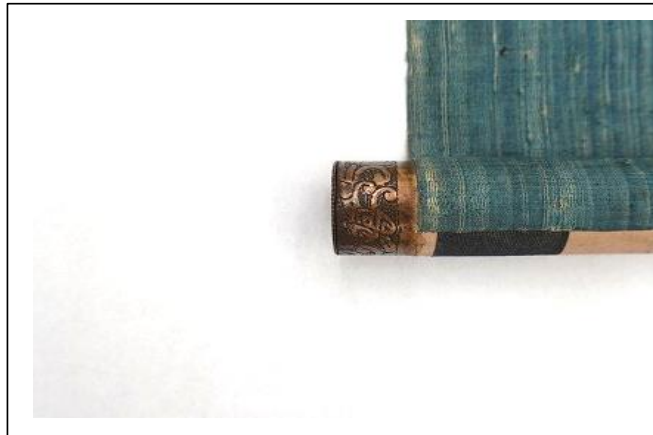
修理前



修理後



修理前



修理後



修理前後写真(部分)

修理前



料絹の欠損部
画面上部の欠損が著しかった。
料絹が経年劣化で脆弱化し、折れ、亀裂から
欠損へと損傷状態が進行していた。

修理後



欠損部は電子線劣化絹で補絹し、欠損部には補筆
は施さず、地色補彩で色調を整えた。

修理前



折損箇所
画面の広範囲で横折れがみられ、料絹及び顔料の剥落が
生じていた。

修理後



本紙裏面から、楮紙を細く切った紙で折れた部分を補強
する折れ伏せ入れを施した。
また、軸を太巻芯で巻く事により今後の折れを防ぐ
事とした。

修理前後写真(部分)

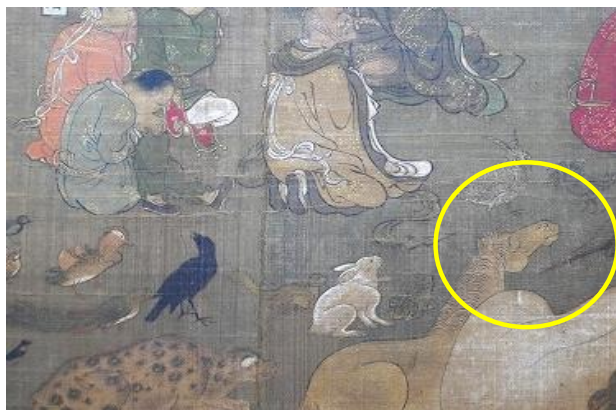
修理前



汚れ・付着物の除去

白カビと思われる汚損があり、柔らかい刷毛などで可能な限りドライクリーニングを行い、65%アルコールで除菌した後、浄化水によるクリーニングを行い経年の汚れを除去した。

修理後



修理前



顔料層の剥落

特に白色顔料の剥落が進行しており、膠水溶液で剥落止め処置を施した。

顔料の剥離剥落状態に合わせて適時適量行った。

修理後



乾式肌上げ法を行う上で顔料の安定した固着は作業を安全に最重要な要素である。

